

# インドネシアでの日本語学習辞書開発の状況 ーパジャジャラン大学を中心にー

スルヤディムリア アグス スヘルマン  
パジャジャラン大学人文科学部日本語日本文学科

キーワード: 日本語学習 辞書開発

## 1. はじめに

『海外の日本語教育の現状 日本語教育機関調査・2009 年度』<sup>1</sup>によれば、世界全体の日本語教育の状況は、学習者数・機関数・教師数のいずれにおいても順調に増加している。特にインドネシアにおける日本語教育機関・教師・学習者の数は、2006 年度の調査結果と比べると、急増し、韓国・中国に続いて、オーストラリアを抜き、世界第三位となっている。数値で表すと、学習者数が 716,353 人(2006 年: 272,719 人)、機関数が 1,988 機関(同年: 1,084 機関)、教師数が 4,089 人(同年: 2,651 人)となっている。その中で、90%以上の学習者が中等教育の学習者である。このように、インドネシアでの日本語教育は、高校での学習者が一番多い。これを見れば日本語の将来は明るいように見える。しかし、果たしてそうであろうか。

インドネシアの日本語教育は、遡って 1934 年から民間学校で始まっていたが、高等教育(大学)で正式に始まったのは、1963 年だと言われている。バンドン市の国立パジャジャラン大学(1963 年)で最初に始まり、その後、国立バンドン教育大学(1965 年)、ジャカルタの国立インドネシア大学(1967 年)、国立スラバヤ教育大学(1981 年)と、全国の大学で相次いで始まった。また、中等教育でも、高校(1964 年)で始まったが、正式に認められたのは、1975 年度に高校のカリキュラムで選択科目として扱われてからである。このようにインドネシアにおける日本語教育は 1980 年代後半から大学でも高校でも盛んになり、現在まで発展を続けてきた。

ここ数年、日本語を学習する人々が世界中で急増している。少し前までは、海外で日本語を学習している人々と言えば、特別の目的を持った一部の人に限られていたが、現在、日本語学習人口が、著しく増加していることは、よく知られているとおりである。その大きな原因としては、近年、日本が世界において注目を浴びる存在となったことであろう。日本の文化・社会を深く知るため、あるいは日本の技術を学ぶため、さらに、生活や業務のため、また、ビジネスの場で、様々な人々が様々な目的を持って日本語を学習するようになり、その結果、日本語を学ぶ外国人が増加しているのである。学習者の層も厚くなり、目的やレベルも多岐に渡り、日本語教育の多様化が進ん

---

<sup>1</sup> 国際交流基金 HP (<http://www.jpfi.go.jp/j/japanese/survey/result/index.html#01>  
2012 年 10 月 13 日閲覧)

でいる。

日本語に対する関心が高まり学習者が増加していくにつれ、一方では日本語教師の不足や多様な目的を持つ学習者に適切な教材が不十分であるなどといった問題が生まれている。このような問題を乗り越えていくためには、それぞれの国や地域で日本語教育に関わっている人々が交流し、親交を深め、協力し合う必要がある。しかし、海外で日本語教育に携わっている機関や日本語教育者は、自国あるいは他国の機関や日本語教育者と意見や情報の交換をする機会が非常に限られているのが現状である。特にインドネシアの日本語教育機関および日本語教育関係者の交流が少ないと言えよう。

この小論文は、インドネシアにおける日本語学習辞書開発の状況、特にパジャジャラン大学人文科学部日本語学科における辞書開発の歴史的な流れを概観し、それを踏まえて、現在の辞書開発の問題を考察したものである。

この十数年の間、2、3年に1回の割合で、日本研究協会及び日本語教育協会が日本研究・日本語学・日本語教育というテーマで、セミナーを開催しており、インドネシア各地の専門家が参加している。又、パジャジャラン大学日本語研究センターも国際交流基金日本語センターの協力を受け、毎年、インドネシアの大学における日本語教育のカリキュラムに関するシンポジウムを行っている。そこでは多くの事項が議論されているが、特に以下の問題が議論の中心となっている。

- A. 日本語学習者の能力を判定する基準作成の必要性
- B. インドネシア人日本語学習者のための日本語教材作成の必要性
- C. 授業科目名の統一の必要性
- D. 日本語教育カリキュラム評価の必要性
- E. インドネシア人日本語学習者のための辞書開発の必要性

近年、政府の対策により日本語教育は大きく改善される傾向にあり、日本語教育機関、教師、学習者の数も今後増えていくことが予想される、しかし、多くの学校における日本語教育の問題点は、一クラス 40 名以上の多人数教育であり、とても理想的な語学教育ができる人数ではない。さらに、日本語教師の教育能力、特に、若手教師の日本語教育能力レベルがまだ十分高くないということも問題である。

## 2. インドネシア教育省の政策と日本語教育の歴史

独立戦争が終わって、最初にできた日本語教育機関は、日伊友好協会が 1958 年に設立した「日本文化学院」という一般社会人のための日本語学校であった。この学校はいろいろな経過を経て、現在インドネシア元日本留学生協会が設立したダルマプルサダ大学に所属している。この後、1960 年代の後半に日本大使館に日本語講座ができた。ここは、日本語教師養成機関ではないが、多くの修了生や在籍学生がのちに日本語学校の先生になっている。一番古い民間日本語学校「エバーグリーン」の創立者タケシ・チャンドラという人がここに在籍していた。この「エバーグリーン」日本語学校は 1973 年に設立された。この後も、日本語のできる人が増えたため、一般日本語学校も多く作られるようになった。

大学レベルでの日本語教育が正式に認められたのは、1963 年のことだった。ここに、イ

インドネシア政府が最初に作った日本語日本文学科が誕生した。当時の西部ジャワにあるバンドン市国立総合大学のパジャジャラン大学であった。1966年には日本の外務省の寄贈でジャカルタ市のインドネシア大学に日本研究学科が設けられた。この2つの大学は日本語教育の長い歴史を持ち、ここから日本語教育がインドネシア全土に広がった。インドネシア全国に直接的に日本語教育を普及させたのはインドネシア教育大学である。ここに日本語教育学科ができたことにより、卒業生が高校の日本語教師となって巣立っていった。このため、西部ジャワでは日本語教育が高校まで広がっていった。だが、インドネシア教育大学の一部の日本語教師がパジャジャラン大学の出身であったため、日本語教育の普及にパジャジャラン大学も間接的に寄与したと言えよう。さらに、北スマトラ大学文学部日本語日本文学科、西部スマトラのブン・ハッタ大学、ジョグジャカルタにあるガジャーマダ大学、東部ジャワのスラバヤ市八月十七大学、ジャカルタ市ダルマプルサダ大学、ナショナル大学などの日本語教師もこのパジャジャラン大学の出身である。インドネシア教育大学と同じ系統の大学は、スラバヤ大学やマナド教育大学で、インドネシア教育大学出身の教員が教えている。

インドネシアの日本語学科では日本語はもちろんのこと日本文学も教えている。現在、インドネシアでは、大学レベルで日本語教育が活発な日本語学科系（パジャジャラン大学が中心）と、日本学を活発に研究する日本研究学科系（インドネシア大学が中心）の2つの系統があり、それぞれが発展しつつある。この2つの系統を中心に、私立大学を含む日本語教育が全国に広がっている。バリ島のウダヤナ大学では、パジャジャラン大学日本語学科との協力で、日本語学科が設立された。

### 3. パジャジャラン大学の文学部日本語学科および大学院言語学研究科

パジャジャラン大学は1957年9月11日創立の国立大学である。創立当初の所在地はインドネシア共和国西ジャワ州バンドン市である。現在は、バンドン市内のキャンパスには大学本部と法学部、経済学部、医学部、大学院があり、学部の多くはバンドン市郊外の丘陵地帯の新キャンパスに移転している。

パジャジャラン大学は、16の学部課程と14の大学院専攻課程があるほか、7つのディプロマ課程（3年制の専攻科）と2つの資格取得課程を擁する総合大学であり、およそ4万4千人の学生が在籍している。

#### 3.1 文学部の概要

文学部は、2012年に人文科学部という学部名に変更した。この人文科学部には、インドネシア語インドネシア文学科、スンダ語スンダ文学科、フランス語フランス文学科、ドイツ語ドイツ文学科、英語英文学科、日本語日本文学科、アラビア語アラビア文学科、ロシア語ロシア文学科、歴史学科の9学科があり、その教育目標の一つに、言語学、文学、歴史に関する専門知識と能力を身に付け、学問の発展に寄与する人材の育成を掲げている。

人文科学部の言語系の学科のなかには、3年制のディプロマ課程及びエクステンション

専攻課程を有するものもある。

### 3.2. 日本語日本文学科の概要

日本語日本文学科は1963年に設立され、現在は4年制の学部課程、3年制のディプロマ課程、及びエクステンション専攻課程を持ち、840人の学生が在籍している（2012年現在）。（内訳は4年制学部課程800人、3年制ディプロマ課程40人である。）なお、エクステンション専攻課程は、大学の政策で2011年に閉鎖された。

学科の教育目標は、日本語においては、話しことば、書きことばの両方において日本語を駆使し、ネイティブ及び非ネイティブの日本語話者とのコミュニケーションを円滑に行なえる能力を養成すること、そして日本文学においては、その背景に関する広範な知識をもとに文学を理解する力を身に付けることである。

### 3.3 卒業生の進路

学部課程卒業生は、国立大学および私立大学の教員を目指すものが多い。3年制ディプロマ課程の卒業生は、インドネシアの日系企業、もしくは、日本からエキスパートを招いているインドネシアの企業に就職するものが多い。

### 3.4 教員の状況

日本語日本文学科専任教員の数は18名である。一般にインドネシアの国立大学の教員は、本学学部課程卒業後に教員として就職したものがほとんどであるため、教員としての研究、教授能力を向上させるため、大学院での研究を行なうことが強く求められている。

当日本語学科教員18名のうち、現在、パジャジャラン大学の言語学専攻大学院に在籍している者が、修士課程に2名、博士課程に3名いる。また、国外では名古屋大学大学院文学研究科博士前期課程に1名が在籍中である。一方、これまでに日本で博士号を取得したものが3名（名古屋大学）、修士号を取得したものが3名、国内で博士号を取得したものが2名いる。

パジャジャラン大学では、2003年度から日本語学専攻課程が開設されることになった。日本語学を専攻する大学院の学生は、言語学、日本語学等を専門とする日本人教授による指導を受けることが必須となっている。しかし、パジャジャラン大学の大学院のように国内で研究する学生にとっては、修士論文および博士論文執筆のための日本語学関係の参考文献や研究資料の不足が大きな問題となっている。これらの大学院生が日本で研究を行なうための研究費の助成としては、国際交流基金の修士論文および博士論文執筆のための研究助成プログラム等を活用することが大いに奨励されている。

### 3.5 大学院日本語学専攻修士課程及び博士課程の開設

インドネシアには、学部課程で日本語を教える大学が国立と私立をあわせて約20校あり、その教員の大部分は学部課程卒業生で占められている。一方、現在では国立大学の教

員に対しては、少なくとも修士号を有することが条件付けられているので、国立大学の教員の多くは、修士課程および博士課程で日本語学を専攻することを望んでいる。そのため、日本語専攻の大学院開設に対する要望はかなり高く、これに応えるためパジャジャラン大学は 2003 年度に日本語学専攻修士課程を開設した。この修士課程の院生の指導、並びに、従来の一般言語学専攻課程の日本語分野で博士号取得を目指す大学院生の指導のために、国際交流基金の援助を得て、日本の大学から院生の論文指導ができる著名な教授を招聘していきたい。この際、交流提携関係にある大学から協力を仰ぎたい。

### 3. 6 日本語研究センター

パジャジャラン大学日本語学科は、2 で言及した通り、インドネシアでは、一番古く、日本語教育の教育者も数多く育成している。そこで、1987 年7月に、日本政府がインドネシアと日本との友好の証として、パジャジャラン大学内に東南アジア諸国で一つしかない日本語研究センターを建て寄贈した。この日本語研究センターはインドネシアにおける日本語教育の発展を図るための研究、研修、教材開発、ゼミなどを主催し、日本に関する全ての情報を収集し、各教育機関はもちろんのこと、企業にも情報提供する役割を果たすことが期待されている。

### 3. 7 パジャジャラン大学の日本語教育の現状とその課題

1. パジャジャラン大学での日本語教育の問題点は、一クラスが 50 名以上という人数を教えなければならない。これは語学教育のためには理想的な人数ではない。少なくとも 20 名ないし 25 名の小クラスが配置できることが理想である。
2. 日本語教師の能力、特に、若手教師の教授能力と研究能力が十分ではない。

## 4. 教材教科書と辞書の発行

インドネシアの日本語学習者は、数量的には明らかに増加傾向を示しているものの、適切な教科書と辞書の発行はまだ少ないのが現状である。しかし、2000 年に入って、インドネシアでは、この日本語学習ブームに乗って、教科書と辞書がたくさん発行されるようになった。質的な評価は別にして、これだけの教科書と辞書の発行を考えると、インドネシアでの日本語教育が発展していると言ってもよいであろう。

現在、市販されている物と非販品の物がある。高校レベルでは、2006 年にカリキュラムができた結果、高校用日本語教科書が編集された。

この教科書は、国際交流基金の援助を受けて 2011 年に出版され、初めての国定教科書として登場した。その前は、ほとんどの高校は、パジャジャラン大学が出版したもの（『Dasar Dasar Bahasa Jepang : 日本語基礎』）を利用していた。

学生用の巻1と巻2と教師用の指導書の2冊で、合わせて4冊である。この教科書の使用にあたっては、教師研修会も実施された。だが、この教科書は、残念ながら現在は販売されていない。現在販売されている教科書は40種類以上あり、辞書も 30種類近くある。これらの半分以上は、1990 年代に民間の出版社から出版された本である。

これらの教科書は、ほとんどローマ字で書かれており、辞書の方は単語帳のようなものである。

## 5. インドネシア人日本語学習者の辞書使用状況の調査

現在インドネシアの多くの大学で使われている辞書は、対象学習者を特定しない一般的な辞書がほとんどで、一部はインドネシア人日本語学習者のために作られた辞書ではない。そこで、本発表では、現在パジャジャラン大学で実際に日本語を学んでいる学習者 600 名にアンケート調査を行い、どのような辞書を使っているか、どういう辞書が良いか、どのような辞書を望んでいるかなど定量的分析を行った。更に、自由記述形式のアンケート調査ならびにインタビュー調査により定性的分析も行い、総合的にインドネシア人日本語学習者が望む辞書の全体像を描き出した。これは、インドネシア人日本語学習者のための教材研究に貢献すると共に、パジャジャラン大学における日本語学習辞書開発の状況をとその課題を記述することを目的とするものである。これまでインドネシアにおいて日本語学習辞書開発の状況とその課題について言及した研究は管見の限りではない。その意味において本稿は、辞書開発研究に新たな視点を与えよう。【表 1】～【表 5】は、今回の調査結果である。【表 1】は、パジャジャラン大学の日本語学生各学年で使用している辞書で、【表 2】は、現在インドネシアで使用している辞書（順不同）である。また【表 3】は、パジャジャラン大学で使用している辞書（使用頻度順）で、そして【表 4】は、パジャジャラン大学で使用している漢字辞書（順不同）で、【表 5】は、自由記述形式のアンケート調査から得た結果である。

【表 1】パジャジャラン大学の日本語学生各学年で使用している辞書

学年	1	2	3	4	5	6	7	合計
1 年生	137	5	3	2	0	1	2	150
2 年生	135	5	4	2	0	1	3	150
3 年生	123	4	6	7	2	3	5	150
4-5 年生	93	2	16	14	12	7	6	150
合計	488	16	29	25	14	12	16	600

- |            |         |
|------------|---------|
| 1. ガクシュウドウ | 5. 広辞苑  |
| 2. エバーグリーン | 6. 電子辞書 |
| 3. 谷口五郎    | 7. その他  |
| 4. 松浦健二    |         |

【表 1】から分かるように 1 年生から 3 年生までは殆どガクシュウドウが出版した辞書を利用している。インドネシア語・日本語そして日本語・インドネシア語の両言語が記載されており、持ち運びが便利だという理由が考えられる。一方、4-5 年生以降も、教室へは、ガクシュウドウが出版した辞書を持参しているが、漢字、作文、読解などのような難しい授業に、より対応できる辞書を必要とする強い傾向が見られる。第 3 位の谷口五郎及び第

4位の松浦健二の辞書には、辞書自体の初版が15年前のもので、新装版されたものさえ内容として改訂版とは言えなくなっている。

【表2】現在インドネシアで使用している辞書（順不同）

No.	辞書名	発行年	著者
1	Kamus Indonesia Jepang	2005	Kenji Matsuura
	インドネシア語－日本語辞典		松浦健二
2	Kamus Bahasa Jepang – Indonesia	1993	Kenji Matsuura
	日本語－インドネシア語辞典		松浦健二
3	Pocketto Jiten Jepang-Indonesia-Jepang	2011	Hirobumi Higashiyama
	日本語－インドネシア語－日本語ポケット辞典		東山博文
4	Kamus Kanji Modern Indonesia-Jepang- Indonesia	2001	Andrew N. Nelson
	最新漢字字典インドネシア語版		
5	Kamus Standar Bahasa Jepang Indonesia	2008	Goro Taniguchi
	標準日本語・インドネシア語辞典		谷口五郎
6	Kamus Praktis Bahasa Jepang-Indonesia-Jepang	2010	Akemi Funabashi
	実用インドネシア日本語 ~ 日本インドネシア語辞典		
7	Kamus Praktis Jepang-Indonesia-Jepang	2009	T.Chandra
	実用インドネシア日本語 ~ 日本インドネシア語辞典		
8	Kamus Umum Jepang-Indonesia-Jepang	2001	Mangunsuwito
	日本語・インドネシア語・日本語大辞典		
9	Kamus Jepang-Indonesia	1974	Toshio Matsumoto
	日本語－インドネシア語辞典		
10	Kamus Jepang Modern 1.250.000	-	Marasaiyatu
	1.250.000 最新日本語・インドネシア語辞典		
11	Kamus Jepang	2011	Primasari N. Dewi
	日本語辞典		
12	Kamus Umum Indonesia-Jepang	1986	Saleh Masodang
	インドネシア語・日本語大辞典		
13	Kamus Lengkap Jepang-Indonesia-Jepang	2011	Farel Monovan
	常用日本語・インドネシア語・日本語辞典		
14	Kamus Modern Jepang-Indonesia	2001	Yakob Tualaka
	最新日本語・インドネシア語辞典		
15	Nihongo Kyoiku Jiten	2005	Nihongo Kyoiku Gakkai
	日本語教育辞典		日本語教育学会
16	Nihongo Bunpo Daijiten	2003	Yamaguchi Myouho

	日本語文法大辞典		
17	Kokugo Daijiten	1972	Shogakukan
	国語大辞典		
18	Kojien	1998	Izuru Shinmura
	広辞苑		
19	Kamus Populer Jepang-Indonesia-Jepang	2010	Sudjianto
	現代日本語・インドネシア語辞典		
20	Kamus Lengkap Jepang Indonesia	2004	Kashiko
	常用日本語・インドネシア語・日本語辞典		
21	Kamus Praktis Jepang-Indonesia-Jepang	2009	Tjhin Thian Shiang
	便利な日本語・インドネシア語・日本語辞典		
22	Kamus Saku Jepang-Indonesia-Indonesia	2011	Andini Rizky
	日本語ーインドネシア語ー日本語ポケット辞典		
23	Kamus Lengkap Inggris-Jepang- Indonesia	2011	Hendra Yulianan
	常用英語・日本語・インドネシア語辞書		
24	Kamus Lengkap Jepang-Indonesia-Jepang	2013	Juanita
	常用日本語・インドネシア語・日本語辞典		
25	Kamus Lengkap Bahasa Jepang	-	Arai Zhazuka
	常用日本語辞典		
26	Kamus Jepang; Jepang-Indonesia-Jepang	2011	Winny Hartono
	日本語・インドネシア語・日本語辞典		
27	標準国語辞典	1979	吉田精一
28	Kamus Baru Indonesia-Jepang	1973	Suenaga Akira
	現代日本語ーインドネシア語辞典		末永晃
29	Kamus Modern Jepang - Indonesia	1999	Edizal
	現代日本語ーインドネシア語辞典		
30	Kamus Umum Jepang - Indonesia	2007	Edizal
	現代日本語ーインドネシア語辞典		
31	日本国語大辞典	1972	日本大辞典刊行会

インドネシア全土では、75種類の辞書が販売されている。しかし、日本語の学生のニーズに応えられる内容でもないし、各辞書の質的な評価もないのが現状である。【表2】は、インドネシアの各大学で使われている辞書の調査結果である。最近出版されたものもあるが、実質的には以前出版されたものを今も使っている状況には変わりがない。



【表 3】 パジャジャラン大学で使用している辞書（使用頻度順）

No.	辞書名	発行年	著者
1	Kamus Praktis Jepang-Indonesia-Jepang	2009	Tjhin Thian Shiang
	より便利なインドネシア語－日本語辞典		
2	Kamus Praktis Jepang-Indonesia	2009	T.Chandra
	実用インドネシア日本語 ~ 日本インドネシア語辞典		
3	Kamus Indonesia Jepang	2005	Kenji Matsuura
	インドネシア語－日本語辞典		松浦健二
4	Kamus Standar Bahasa Jepang Indonesia	2008	Goro Taniguchi
	標準日本語・インドネシア語辞典		谷口五郎
5	Lain-lain		
	その他		

【表 3】 から分かるように、パジャジャラン大学の日本語の学生は持ち運びが便利という理由で第 1 位の「より便利なインドネシア語－日本語辞典」をもっとも利用していることが分かった。その他の辞書は携帯電話にダウンロードできる辞書アプリを利用する傾向が見られる。

【表 4】 パジャジャラン大学で使用している漢字辞書

No.	辞書名	発行年	著者
1	Kamus Kanji Modern Indonesia-Jepang- Indonesia	2001	Andrew N. Nelson
	最新漢字字典インドネシア語版		
2	電子辞書		
3	Kamus Kanji Jepang-Indonesia	2010	Neneng Mauliyanti
	日本語・インドネシア語漢字字典		
4	携帯電話にダウンロードした漢字辞書		
5	-google 訳辞書		
6	その他		

上記の【表 4】を見ると、使用率が高くなっているのは、第 1 位のインドネシア人が訳した漢字字典であり、使い方も便利で、極めて適切な内容であると思われる。なお、第 5 位（google 訳辞書）及び第 6 位は、上記と同様に携帯電話やノートパソコンにダウンロードできるような辞書アプリを利用する傾向がある。

【表 5】自由記述形式のアンケート調査から得た結果

番号	学生のコメント	合計
1	持ち運びが便利な辞書	109
2	豊富な用例文	96
3	各ことばに様々な意味を記述	89
4	両言語が載せる辞書	89
5	低価格の辞書	45
6	ローマ字・ひらがな・カタカナ・漢字交じり	45
7	外来語、オノマトペ	34
8	若者や子どもやお年寄りが使う言葉	24
9	カラーフルの辞書	23
10	最新の言葉が載せる辞書	23
11	その他	23
	総計	600

自由記述形式のアンケート調査による定性的分析から得た結果は、「各ことばに様々な意味を記述し、豊富な用例文」の持ち運びが便利な辞書の方が「意味記述・漢字記述の低価格の辞書より利用したい。」という強い傾向が得られた。より詳細に述べると、現在使用している辞書に十分満足しているわけではなく、学習者のモチベーションを高めるような現代の日本事情、特に、若者事情をふんだんに取り入れた楽しい辞書で、さらに、言語的、文化的な側面での対照研究の成果も取り入れた辞書が望まれていると言える。

さらに、新入生から3年生までの学生が、【表 2】で一番使われている「より便利なインドネシア語－日本語辞典」を利用しているが、宿題やレポートを書く際には、図書館で【表 2】の1番及び2番の辞書を利用していることが多い。漢字辞書の場合は、【表 3】に示されたように、ネルソンの最新漢字字典インドネシア語版を利用することが分かった。

なお、卒論を書く学生及びそれを書いている最中の準上級及び上級の学生は、下記の辞書を利用する傾向がある。

1. 『広辞苑・第五版』（新村出編）
2. 『国語大辞典』（小学館）
3. 『日本語文法大辞典』（明治書院）
4. 『日本語教育事典』（日本語教育学会）
5. 『日本国語大辞典』（小学館）

最後に、標準語だけでなく、若者や子どもやお年寄りが使う言葉、外来語、オノマトペなどが記載された辞書も望まれていることを付け加えておく。

## 6. おわりに

日本語で議論をしたり、日本語で書かれている書物を読んだりするのに必要かつ十分な日本語力を身につけるには、ことばの指針となる適切な辞書を利用するのが最も確実な方法であろう。ただ、学生は学ぶべきことが多く、単にことばを集めて意味を示しただけの辞書では、決して学生に適した辞書とは言えず、学習者の立場を十分に考慮したものではなければならない。ことばの学習を通して、日本語の高度のコミュニケーション能力を身に付けることが大切である。そこで、将来インドネシアの人々の、インドネシアの人々による、インドネシアの人々のための優れた役に立つ辞書の執筆、発行が期待される場所である。

### <参考文献>

- Agus Suherman SURYADIMULYA** (2012) 「東南アジア諸国間および日本との間の日本語教育の連携の可能性」 『東南アジア日本語教育シンポジウム』、8頁、日本語教育学会
- Agus Suherman SURYADIMULYA・坂本 正** (2012) 「インドネシア人日本語学習者が求める初級日本語の教科書とは? — アンケート調査を基にして —」日本語教育国際研究大会ポスター発表(8月18日)名古屋大学
- Dedi SUTEDI** (2012) 「インドネシアにおける日本語教育の概要と特徴—中等教育の学習者数増加の背景—」『東南アジア日本語教育シンポジウム』、3頁、日本語教育学会
- Nandang RAHMAT** (2008) [http://www.geocities.ws/jes2008bkk/06\\_Panel\\_5-37.pdf](http://www.geocities.ws/jes2008bkk/06_Panel_5-37.pdf)